

1	音楽研究会			部会記録	
日時	平成31年3月6日				
部会名	歌唱部会			主任	原山史子（三ツ境小）
参加数	16名	司会	太田絢子（菊名小）	記録	谷 瞳（東汲沢小）
研究 内 容	研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方				
	歌唱部会テーマ：子どもが、歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動				
	研究仮説：魅力的な教材との出会いを大切に、互いに表現のよさを聴き合い、学び合うことで、どの子どもも歌う喜びを感じながら、表現力を高めることができる。				
	1. 基礎研究 提案者 仁田峠 洋子（綱島小）				
	「ほたるこい」 わらべうた 三浦 真理 作曲				
	・音取りは簡単だが、ピアノ伴奏は華やかで、音楽的に充実した作品になっている。				
	・4年生の区の音楽会で歌ったり、学年のコンサートで発表したりした。				
	・1分の短い曲だが、声の重なり方がおもしろく、お互いのパートを聴き合う勉強になる。				
	2. 研究授業の分析と考察 提案者 古城 京子（大口台小）				
	第5学年 学習の主題「全体の響きを聴いて歌おう」				
中心教材「南風にのって」 若松 歓 作詞・作曲					
・子どもが声を重ね、歌う喜びを感じてよりのびのびと表現する力を高めるために、聴き合い、学び合っていた場面を「もの」「場」「言葉・表情」の3つの手立てで整理しながら振り返った。					
・パワーアップポイントが羅列に終始してしまい、何を重点的に扱いゴールとするかが明確でなかったことと、焦点が絞られていないのに「どうだった？」と漠然と投げかける場面が多く、せっかくの活動が深い学びにつながらなかった。前時のふりかえりにあった「音程」に目標を絞るとよかった。					
・聴き役の子たちが発言した後には歌に立ち返る場面が少なかった。一つ話題が出たらそこを視点にもちながらも一度歌い体感することで、言語活動と音楽的活動がさらに結びつく。〔歌→発言→歌〕という流れで活動できると、児童の気付きがより深まるとともに、全体でも確実に共有できたのではないかと考える。					
・子どもたちの歌に対する意欲や真剣に取り組む姿勢は素晴らしく、ここまで積み重ねてきた指導がしのばれる。これに、具体的な目標と手立てが加われば、さらに効果的に歌に反映させられるだろう。					
3. 研究の成果と今後の課題 提案者 原山 史子（三ツ境小）					
〈研究の成果〉					
・模擬授業を伴った実践提案では、実践的な「聴き合い」「学び合う」対話の授業を再現することで、子ども役の部員は授業の流れや子どもの思考を感じることができた。さらに感想やアドバイスを伝え合い、子どもの実態に合わせた効果的な手立てを部員間で共有できた。また、基礎研究では、今月の歌や音楽会など、様々な場面での曲の提案で大変有意義だった。					
・研修では、楽曲を詳しく分析することによって、どの主題で、どの部分を扱えば効果的か、考える道筋を教えていただいた。また、美しく響き合うために必要なことを具体的にご指導いただいた研修では、思考力・判断力・表現力と、知識、技能、すべて大切で、子どもたちに身に付けさせていきたいと感じた。					
・授業研究会では、指導者との信頼関係の上に、意欲をもって生き生きと歌う子どもたちの姿を見ることができた。より深い学びのために、教師はゴールを明確にもち、子どもの発言をもとに焦点を絞りながら導いていくこと、言語活動は音楽活動との往還があつてこそ、価値が生まれるものであることなど、これから					

らの指導に生かすことができる研究会となった。講師の先生からは、「主体的・対話的で深い学び」の中に、しっかりと教師の指導を入れていくこと、「重なり合う音の響きのよさ」を子どもたちが体感できるようにしていくこと、などをご指導いただいた。

〈課題と今後の方向性〉

- ・部員の構成に合わせた研究内容や研究会の在り方を工夫した今年度を継承し、模擬授業を伴った実践的な提案を通して、部員相互で協力し、様々な知恵を出し合いながら、子どもの豊かな表現力実現のために、研究を進めていきたいと考える。